

厚真町地域公共交通活性化協議会

平成21年2月13日設置



概要

厚真町は、北海道胆振管内の東部に位置し、総面積404.61km²で、南北に細長く、市街地が2つ存在するほか、郊外に集落が点在する構造となっており、公共交通空白地域が存在する。人口は、昭和33年をピークに減少を続け、平成27年には、4,838人となっている。高齢人口は増加傾向にあり、平成27年国勢調査時点で、高齢化率が35.4%となっており、全道平均の29.1%を上回っている。買物や通院等の日常生活に必要な移動について、町内に限らず隣接都市である苫小牧市や千歳市への移動も多く、地域間幹線系統およびフィーダー系統路線の維持・確保が求められる。

○地域公共交通の現況

- ・JR日高線(浜厚真駅)
- ・あつまバス(株) (9路線) ・道南バス(株) (町内経由2路線)
- ・循環福祉バス(5路線) ・スクールバス(7路線)

○地域公共交通の課題

- ・公共交通の利用者数の減少、住民の公共交通利用意識の低さ
- ・町内公共交通の利便性の低さ
- ・公共交通の維持に係る財政負担が増加

○調査の主な内容

- ・地域住民ニーズ調査(アンケート調査・町民意見交換会)
- ・路線バス乗降調査
- ・循環福祉バスの運行状況分析と再編にかかる利用状況分析
- ・新たな輸送資源の検討
- ・地域公共交通計画(案)の作成

○地域公共交通活性化協議会開催状況

令和3年5月28日 第35回協議会を開催(書面会議)

- ・地域公共交通計画素案について
- ・令和4年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

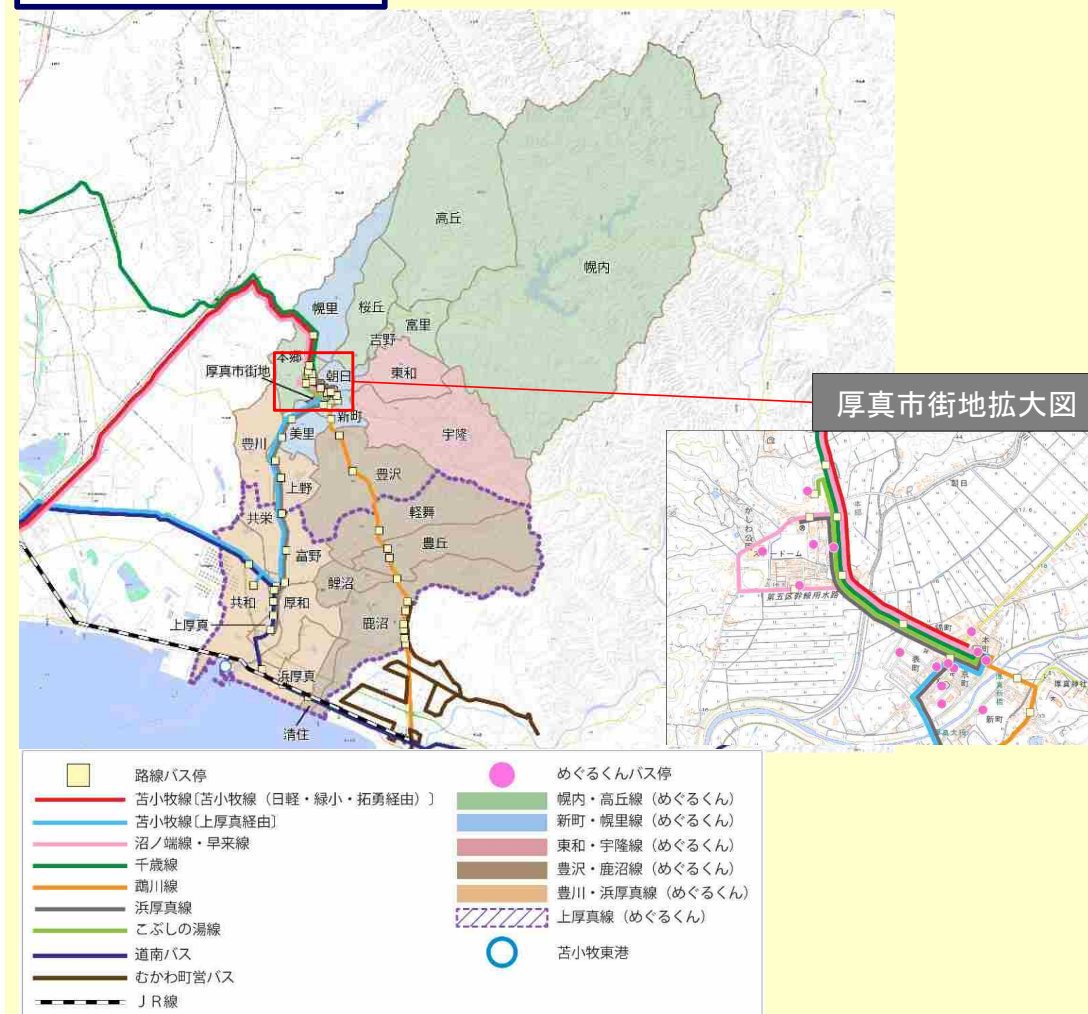
令和3年11月26日 第36回協議会を開催(書面会議)

- ・協議会補正予算(案)について

令和3年12月22日 第37回協議会を開催

- ・地域公共交通計画について
- ・令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

公共交通の概要



厚真町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

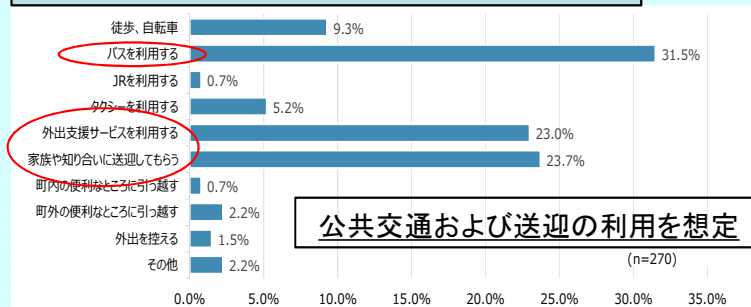
地域住民ニーズ調査

(1) 公共交通に関するアンケート調査 (2)中学生保護者アンケート (3)町民意見交換会

(1) 公共交通に関するアンケート調査 ～ 65歳以上の町民を対象に調査

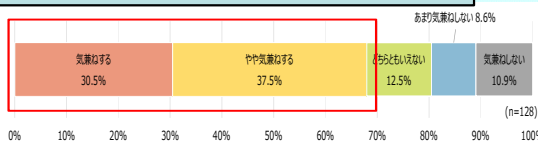
- 65歳以上では、7割が運転免許も自動車も保有しているが、年齢が高くなるほど運転のできない高齢者が増加している。
- 将来運転が困難になった場合の移動手段としては、「バスの利用」「外出支援サービスの利用」「家族や知り合いによる送迎」を想定されている。
- 送迎に頼ることの「気兼ね感」を示している回答も多く、気兼ねなく利用できる交通サービスが求められている。
- 町外(苫小牧)への移動頻度は60～70代前半が週に1回以上の回答が多く、高齢のほど公共交通の利用割合が高くなっている。

将来、運転が困難になった場合の移動手段



公共交通および送迎の利用を想定

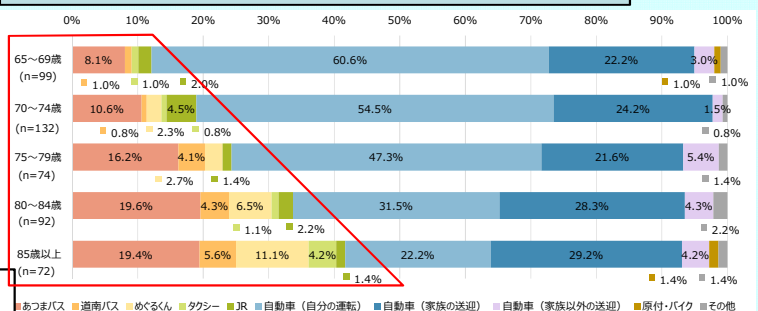
送迎してもらうことに気兼ねするか



家族等の送迎に気兼ねする方が6割強

高齢のほど公共交通の利用意向が高い

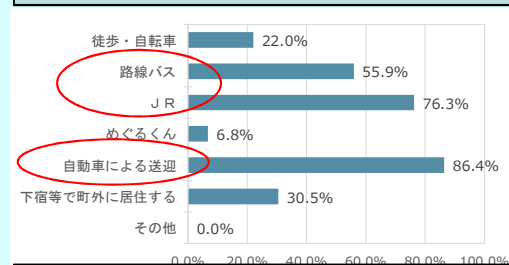
年齢別自宅から町外に出かけるときの交通手段



(2)中学生保護者アンケート ～ 町内2校の全生徒の保護者を対象に調査

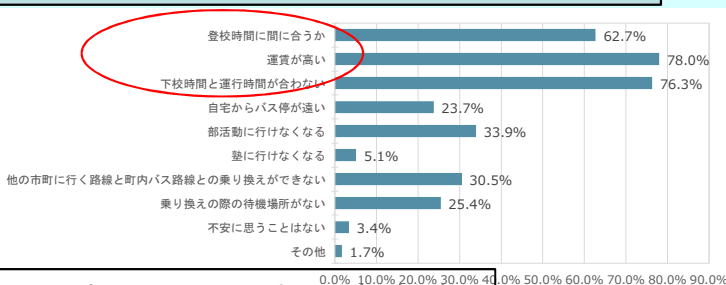
- 想定している進学先として「苫小牧市」が88.1%と最も多く、「厚真町」が33.9%。
- 通学時に想定している移動手段は、「自動車による送迎」が86.4%、公共交通では「JR」が76.3%、「路線バス」が55.9%と、各交通モードを併用した通学を想定
- 「毎日の送迎は負担が大きい」と回答している保護者が多く、高校通学に利用しやすい公共交通が求められるが、運行時間帯および運賃負担を懸念する意見が多い。

自宅から通学時に利用を考えている交通手段



自動車によるJR駅までの送迎が多数

バスで通学することを想定したとき不安に思うこと



運行時間と運賃に対する不安が多数

主な意見(抜粋)

- バスの運賃が高く、値下げや学生割引等してほしい
- 町外通学の定期券代の負担を軽減してほしい
- 自宅から早来駅や浜厚真駅まで公共交通がない
- 登下校時間に合わせて運行してほしい
- バスの便数が少ない
- 高齢者だけでなく、学生のことも考えてほしい
- コロナ禍で車内の感染対策がされているか心配

厚真町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

(3)町民意見交換会 ～ 町内6カ所で開催

主な意見(抜粋)

【めぐるくんについて】

- ・免許返納後の生活の足となるため、利便性を上げてほしい
- ・帰りの時間が合わず、待ち時間が長く利用できないことがある
- ・苫小牧市や千歳市方面行き路線バスとの接続を良くしてほしい
- ・利用の仕方が分からない
- ・市街地だけでなく、他地区へも行けるようにしてほしい
- ・日中時間帯の運行を増やす等、1日2往復程度できるようにしてほしい

【町外への移動について】

- ・苫小牧市まで直行する交通が500円程度なら使いたい
- ・空港まで約30分の立地なのは便利だが、公共交通の便数が少ない。

【新しい交通について】

- ・1回300円程度の乗合タクシーが良い
- ・町内であれば、往復500円で利用できる予約型の交通がほしい
- ・めぐるくんの運行空白時間帯を補完するような交通手段があると便利

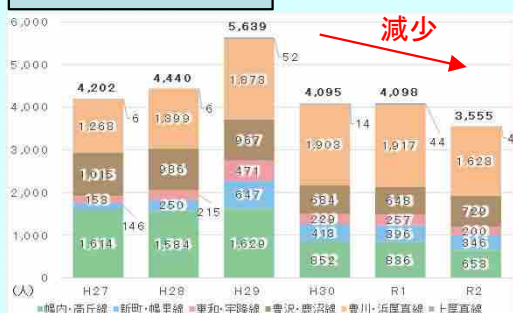
公共交通の乗降調査

(1) 循環福祉バス「めぐるくん」利用状況 (2) 路線バス乗降調査

(1) 循環福祉バス「めぐるくん」利用状況

- ・平成29(2017)年度まで段階的に運行内容の充実化を図り、利用者数は増加傾向にありましたが、平成30(2018)年度以降は減少傾向にあり、その要因として平成30(2018)年9月の北海道胆振東部地震による利用者ニーズの変化や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が考えられる。
- ・稼働率の低い路線もあり空白時間が多く、車両を有効に利用できていない状況であった。

年度別利用者数



令和2(2020)年の路線別稼働状況



稼働率5割以下の路線

(2) 路線バス乗降調査

- ・沼ノ端線は、ほとんどの利用者が苫小牧市もしくは安平町から、厚真高校への通学者である。
- ・苫小牧市内移動に利用されている。
- ・利用者が無かった路線がある。

※「北海道におけるまん延防止等重点措置」の期間中に調査を実施

事業者	路線名	運行便数	調査日乗降者数 ※()内は町内バス停の乗降者数	
			平日	休日
あつまバス	苫小牧線(日軽金経由)	6便/日	25(5)	29(9)
	苫小牧線(緑小学校経由)	6便/日	18(1)	36(9)
	苫小牧線(拓勇経由)	2便/日	4(3)	運休
	苫小牧線(上厚真経由)	6便/日	12(9)	9(5)
	沼ノ端線	4便/日	62(61)	運休
	千歳線	6便/日	21(4)	24(10)
	こぶしの湯線	4便/日	(0)	運休
	浜厚真線	2便/日	(0)	運休
道南バス	鶴川線	4便/日	(0)	運休
	平取～苫小牧	2便/日	35(3)	7(1)
	静内～苫小牧	11便/日	75(4)	75(3)

厚真町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

基本方針(案)

みんなでつくる自家用車に頼らなくても暮らせるまち
～わかりやすく、利用しやすい地域を支える公共交通の実現～

立地適正化計画をはじめとする、まちづくり関連計画との整合・連動を図りながら、市街地部だけでなく、郊外部においても、過度に自家用車に依存しなくても安心して生活し続けられるまちを目指す。

本計画で位置づける厚真町の公共交通は、完成形ではなく、時代の変化や住民のニーズ変化に対応し、改善を繰り返すことが必要。

公共交通は行政や事業者だけが主導して推進するのではなく、すでに利用されている方はもちろん、これから利用されるかもしれない方を含むすべての住民の皆さんで創り上げ、そして利用することで、守り、つないでいくことが必要。わかりやすく、利用しやすい公共交通の実現を目指す。

目標1	町内での日常の暮らしを支える、まちづくりと連動した利便性の高い公共交通網の形成
目標2	定住自立圏の中心市や周辺市町の都市機能の活用を図るための、交通ネットワークの強化
目標3	わかりやすく利用しやすい持続可能な地域公共交通の実現
目標4	既存の公共交通の枠組みにとらわれない新たな移動サービスの実現
目標5	みんなで考え、つくり、つなぐ公共交通の実現

地域公共交通網の将来像(案)



厚真町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

目標の達成のために、次の施策(案)を位置付ける。

- 施策① : 立地適正化計画やまちづくり計画等と連動しデマンド交通(地域内フィーダー系統)の再編
- 施策② : 町内完結バス路線の見直し
- 施策③ : 中心拠点及び都市機能誘導区域における交通結節点機能の充実
- 施策④ : 町内の輸送資源を総動員した広域交通との接続の確保
- 施策⑤ : 厚真町と周辺市町を結ぶ生活交通の維持・確保
- 施策⑥ : 地域公共交通に関するわかりやすい情報提供
- 施策⑦ : ICT技術を活用したデマンド交通の高度化
- 施策⑧ : 公共交通利用促進にかかる各種支援
- 施策⑨ : 持続可能なデマンド運行の構築
- 施策⑩ : 来訪者が利用しやすい交通の提供
- 施策⑪ : 先進的な取組の導入に向けた積極的な検討
- 施策⑫ : 地域における新たな移動サービスの実現と普及に向けた情報提供
- 施策⑬ : 地域公共交通の維持存続に向けた啓発活動(モビリティマネジメント)

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額や事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。